

○奈良教育長 教育委員会協議会を開会いたします。

まず、教育委員会の活動状況について、事務局から報告をお願いします。

乾口教育政策課長。

○乾口教育政策課長 それでは、教育委員の活動について、ご説明いたします。教育委員会の活動状況の資料をごらんください。

8月1日から8月31日までの活動内容といたしましては、活動日、活動内容、活動場所、活動出席委員名として記載しております。

以上、簡単ではございますが、教育委員の活動の説明とさせていただきます。

○奈良教育長 続きまして、委員の活動について、所感の報告をしたいと思います。

それでは、委員を代表して、橋野委員から報告をお願いします。

○橋野委員 台風15号が9月5日に関東地方に上陸し、千葉県では1万2,000軒近くの方が被害に遭われ、2週間以上がたちますが、あのときはまだ残暑が厳しくとても暑い中、停電、断水と、被害が長引き、大変な日々を送られているさなか、さらに23日には台風17号が九州に上陸し、15万戸近くが停電し、また強い風に怖い思いをされたことと思います。

昨年は、枚方でも9月4日に台風21号が直撃し、最大瞬間風速40.2メートルと、市内全域で屋根がわらが飛ばされたり、信号機や看板が強風でゆがみ、大きな被害となったことを改めて思い出されました。

このたび台風により被害を受けられました皆様方には、お体に十分にご自愛いただき、一刻も早く通常の生活に戻れることをお祈りいたします。

さて、本日は「教文子どもサイエンスフェア」、中学生の夏季集中学習と夏休みの宿題について、お話しさせていただきたいと思います。

8月21日に、令和元年度枚方子ども夢基金活動事業の一つの「教文子どもサイエンスフェア」が開催されました。教育文化センターで毎年あり、リピーターもふえ、今年度は600人強の親子連れが来られました。中でも大阪工業大学の「淀川の魚で魚拓をとろう」が一番応募が多かったようです。午後からだだったので、私は直接見ることはできなかったのですが、気になり、後日写真にて拝見させていただきました。淀川に住んでいる魚について説明をしていただき、墨を使って魚拓をとるということでした。皆さんとても上手にできていました。

私は、大阪市科学館の「3D宇宙映像体験」がとてもよかったと思いました。説明者の方が子供たちに質問を交えながら、上手に興味を引き出し、壮大な宇宙の旅に行かせていただいたような、とてもわかりやすく、迫力あるすばらしい解説をしていただき、夜には月や星を眺めたいくなるような余韻に浸れる映像体験でした。

次に、この夏季休業中に取り組まれた中学3年生を対象とした民間事業のトライさんの委託による夏季集中学習教室がモデル校として、第三中学校と渚西中学校で開催されました。両学校の校長先生にお話を伺うことができ、3年生ということもあり、クラブを引退してからの8月より8日間の午前中、8時45分から12時35分までの50分4コマの授業で、受験勉強に向けて家で何を

していいかわからない、過去問だけに終わってしまう生徒たちがいる中、教材があり、しっかりと授業をしていただいたことをお伺いしました。

第三中学校では、プリントの配布とミルメールでの配信もしていただき、学習に向けて意識を持って勉強に対し、基礎学力をつけたい12名が全日参加され、最初から静かに授業を受けられたようです。

渚西中学校では、対象となる3年生が84名と小規模校ながら35名が参加と、たくさんの生徒が学習に向けて申し込んでくれ、前半は意欲的に集中学習教室に来校していたのですが、後半は二十数名と少し減ってしまったようですが、本当に学習に向けて取り組みたい生徒が残り、質のよい学習ができたようでした。

この集中学習教室で学んだことを、日々の学習や受験勉強にも生かし、育むきっかけになってもらえるとうれしいと思いました。また、各中学校での2年生を対象とした放課後の国語と数学の基礎、基本を教えてもらえる学習教室「ひらスタ」も見守っていきたいと思います。

第三中学校では、定員がいっぱいの15名が受講され、3名の指導者に丁寧に教えていただいているようです。

最後に、夏休みの宿題についてなのですが、夏休みの宿題の丸つけやお直しを保護者にしてもらうということがあるようです。家庭学習の定着が少しでもつながればいいのですが、取り方によってはやらされた、先生の手抜きではないかと思われる保護者の方も少なからずおられるようです。また、フルタイムで仕事をされて、家事をされていると、なかなか時間がとれず、子供に任せっきりになったり、学校からはプリント保護者に配布し、伝えたつもりでも、児童から保護者に伝わっているとは限りません。夏休みも終盤になって、プリントを出して、慌てて丸つけとお直しをしたお話もお伺いしました。

私も、なかなか進まない宿題に欠点ばかり探してしまい、ついやる気をなくしてしまう言葉がけに、子供が泣きながら宿題をさせたしまった苦い思い出があります。

この委員のお仕事させていただき、子供たちの家庭学習の必要性、保護者から褒められることで自分を見てもらえるうれしさと喜び、自己肯定感の向上となっていくことを教わりました。汚い字を書いたときにこれはだめだと言うのではなく、きれいに書いたときに褒めてあげるとよいことに今さらながら理解ができます。でも、あの小学校の子育ての中では、余裕もなく、頭ではわかっている、なかなか行動に移すことができなかつたように思います。

私は、子供たちが大きくなり、保護者のほうに、なぜそうなるか、やらされているのではなく、間違いはなるべく早く見つけ、やり直す必要があることを伝えることができるようになりました。ですが、これは私もそうだったように、言い続けなければいけません。子育てに余裕がなくなってしまうと、また戻ってしまいます。先生方も大変だと思いますが、丸つけ、お直しの必要性をプリントで配布するのだけではなく、高校ではよくあるのですが、大切なプリントを配布したときは、本日はこのようなプリントを配布しましたなど、第三中学校のようにミルメールで発信されることがよくあります。もちろん子供たちがちゃんと保護者に渡してくれるのが一番なのですが、保護者のほうから、「こんなプリントをきょうもらったんじゃない」の一言をかけることで、学校側と保護者とのつながりができ、保護者も安心できるように思います。私立の高校では、ホ

ームページの載せた内容、更新されたことまでメールで来たりします。先生方も何かとお忙しいとは思いますが、学期末の懇談時にでも説明しながら、丸つけ、お直しのプリントを渡していただけると、随分保護者の距離が縮まるのではないかと思います。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございました。

それでは、事務局からの報告案件ですが、以降の協議会は非公開となります。

< 非 公 開 案 件 >

○奈良教育長 それでは、本日の協議会の案件は以上となりますので、協議会を終了します。